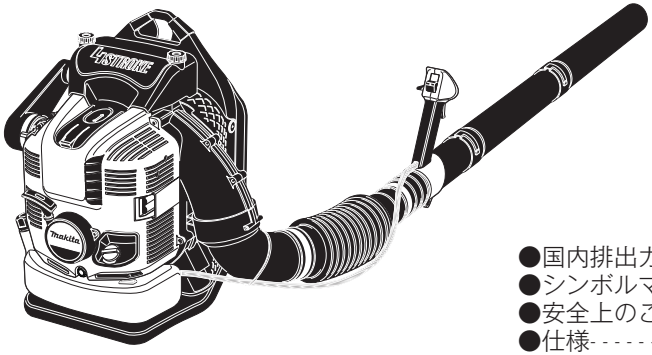
エンジンブロワ

取扱説明書　モデル EUB4760



モデル **EUB4760**

ー目　次ー

●国内排出ガス規制について---------- 2
●シンボルマークについて---------- 3
●安全上のご注意---------- 4
●仕様---------- 9
●各部の名称---------- 10
●注意ラベル---------- 11
●使用準備---------- 12
1. 送風パイプの取り付け方
2. 背負いバンドの取り付け方
●運転を始める前に---------- 14
1. エンジンオイルの点検・補給
2. 燃料の給油
●運転---------- 17
1. 始動方法
2. 停止方法
●アイドリングの調整---------- 20
●作業方法---------- 21
1. 背負いバンドの調整
2. コントロールハンドルの調整
3. ブロワ作業
4. 運搬・保管時
●点検と整備---------- 23
1. エンジンオイルの交換
2. エアクリーナの清掃
3. スパークプラグの点検
4. 燃料フィルタの清掃
5. 各所ボルト、ナット、ビスの点検
6. 各部の清掃
●格納方法---------- 30
●故障かな？ と思ったら ---------- 31
●保証書---------- 33

このたびは**マキタエンジンブロワ**をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

・お買い上げの製品を安全に効率よくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書をよくお読みください。
・取扱説明書を紛失や損傷したときは、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所に手配をお申し付けください。

※ この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp/

シンボルマークについて

製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。

取扱説明書をよくお読みいただき内容を十分ご理解のうえご使用ください。

エンジンを停止してください。

換気の悪い場所では使用しないでください。

給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。

自動車用ガソリンを入れてください。

給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。

保護具を着用してください。

万一の場合にそなえて救急箱を備えてください。

高温部に注意して下さい。

注意文の ⚠警告 ・ ⚠注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお ⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ：製品および付属品の取り扱い等に関する重要なご注意。

安全上のご注意

全　般

⚠警　告

1. ご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、内容を十分ご理解のうえ、ご使用ください。

・ 機械の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。

2. 身体を冷やさないような服装で作業してください。
3. 袖や裾の締りのよい服装をしてください。また、手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。
・ 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
4. 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むよう指導してください。また、子供には本機を貸さないでください。
・ 機械の取り扱いの知識が不十分な場合、事故の原因になります。
5. 保護帽（ヘルメット）、耳栓、保護メガネ（ゴーグル）、防振性のよい手袋、滑り止めのついた安全靴、すね当てなどの保護具を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

作　業　前

⚠警　告

1. **次のときは本機を使用しないでください。事故の原因になります。**
- 疲れているとき、身体が不調なとき。
- 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
- 夜間の使用。
- 妊婦による作業。

2. **燃料の取り扱いには十分注意してください。**
- 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

3. **引火、火災の恐れがあります。**
- 燃料の給油をするときは、火気のない所で行なってください。
- 燃料の給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどはタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

- 燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なってください。
- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
- 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも 3m 以上離れてください。
- ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のある物の近くでは、使用しないでください。
- マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。

4. **エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。**
- 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

5. **雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。**
- 転倒してけがの原因になります。

6. **作業場は十分明るくしてください。**
- 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。

7. **次の場合はエンジンを停止させてください。本体が作動して、けがの恐れがあります。**
- 移動する場合
- 使用しない、または修理する場合
- その他危険が予想される場合

8. **指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
- 本取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものは使用しないでください。事故やけがの原因となる恐れがあります。

9. **吸気口やシリンダフィンのゴミは取り除いてください。**
- ゴミ詰りによる加熱で、ゴミが燃え、火災のおそれがあります。

⚠注　意	
1. 損傷した部品がないか点検してください。 ・ 使用前に損傷した部品がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。 2. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。 ・ 事故の原因になります。	3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。

作　業　時

⚠警　告

1. 始動時および運転中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。
・ 感電する恐れがあります。
2. ハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにしてください。
・ 確実に保持していないと、けがの原因になります。
3. 始動するときは必ず取扱説明書にしたがってください。
・ 取扱説明書の指示以外の方法で始動すると､事故のおそれがあります。
4. 使用中、本機の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止してください。
・ そのまま使用していると事故の原因になります。

⚠注　意

1. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。
・ 事故の原因になります。
2. 長時間の作業は、身体に負担がかかります。使用時間は連続 1 時間以内とし、一連作業の後 30 分以上の休止時間を設けてください。
3. 使用中およびエンジン停止直後、マフラ、シリンダフィンなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
・ やけどの原因になります。

4. エンジンをかけたまま放置しないでください。
・ 事故の原因になります。

整備・格納

⚠注　意

1. 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また､スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。
2. エンジンオイル給油後はエンジンが正立状態になる様に保管、運搬してください。
3. 長期間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタ等から燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。
4. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にお申しつけください。
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因になります。

そ　の　他

⚠注　意

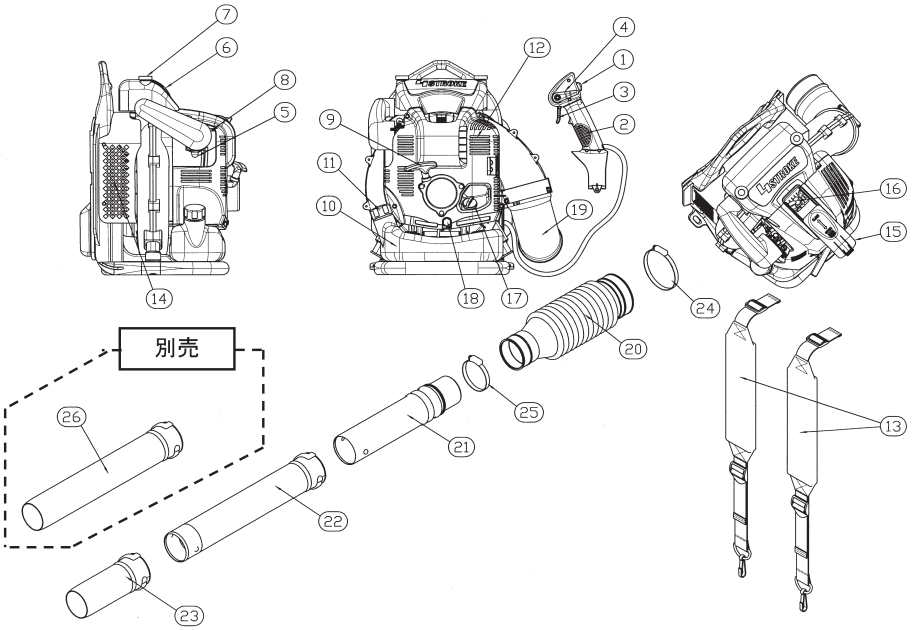
1. 車で移動する場合や本機を発送する場合には、燃料を燃料タンクから抜き、燃料タンクが完全に空になっていることを確認してください。
・ 火災、事故の原因になります。
2. 注意ラベルがはがれてしまった場合は、新しい注意ラベルを貼ってください。注意ラベルはお買い上げの販売店またはお近くの当社営業所に手配をお申し付けください。
3. 万一の事故に備えて、必ず救急箱を作業場の近くに備え付けてください。救急箱から持ち出した場合には、直ちに交換品を入れておいてください。
4. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。

仕　様

型　式　名		EUB4760
質　量（kg）		10.2（背負い部のみ）
寸法(全長×全幅×全高)（mm）		350 × 430 × 495
エンジン最高回転数(min^{-1})		7,200
エンジン	型　式	空冷４ストローク直立単気筒 OHV ガソリンエンジン
	排　気　量（mL）	75.6
	使　用　燃　料	自動車用ガソリン
	燃料タンク容量（L）	1.9
	使用滑滑油（エンジンオイル）	AP1 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル（自動車用４ストロークエンジンオイル）
	潤　滑　油　量（L）	0.22
	気化器(キャブレタ)	ダイヤフラム式
	点　火　方　式	無接点マグネト方式
	スパークプラグ	NGK CMR6A
	始　動　方　式	リコイル式（デコンプ付）
	潤　滑　方　式	強制潤滑方式
エンジン回転制御方式		トリガレバー式（クルーズコントロール付）
標　準　付　属　品		蛇腹パイプ1本、回転パイプ1本、ブロワパイプ1本、ブロワノズル1本、工具一式、背負いバンド2本、ホースクランプφ100、ホースクランプφ76

1. エンジンオイル、スパークプラグは、マキタ指定のものをご使用ください。
2. 改良のため主要機能および形状などは変更する場合がありますのでご了承ください。

各部の名称

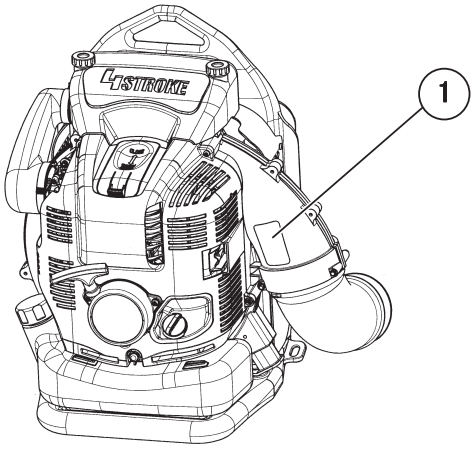


①ストップスイッチ	⑦ノブボルト	⑭吸入口ネット	㉑回転パイプ
②コントロール ハンドル	⑧チョークレバー	⑮プラグカバー	㉒ブロワパイプ
③トリガレバー	⑨スタータハンドル	⑯スパークプラグ	㉓ブロワノズル L=200
④クルーズコントロールレバー	⑩燃料タンク	⑰オイルキャップ	㉔ホースクランプ φ 100
	⑪燃料タンクキャップ	⑱オイルドレンボルト	㉕ホースクランプ φ 76
⑤プライマポンプ	⑫マフラ	⑲エルボ	㉖ブロワノズル L=450
⑥エレメントカバー	⑬背負いバンド	⑳蛇腹パイプ	

注意ラベル

本機を安全にご使用いただくために、本機には注意ラベルが貼ってあります。
注意ラベルを全て読んでからご使用ください。
注意ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものと交換し、貼り付けてください。
ラベルの手配はお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

貼付位置①



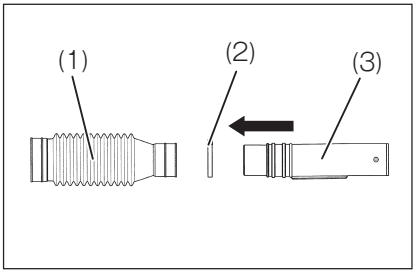
使用準備

次の手順で送風パイプ、背負いバンドを取り付けてください。

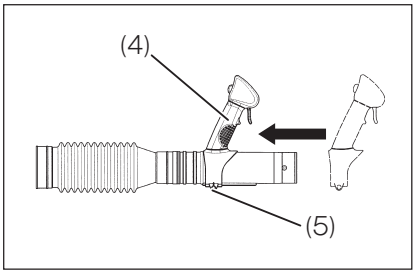
⚠注　意
●作業には手袋をご使用ください。 ●エンジンの始動は本機が完全に組み上がってから行ってください。 ・ 組み立て前、組み立て中の運転は事故の原因となります。

1. 送風パイプの取り付け方

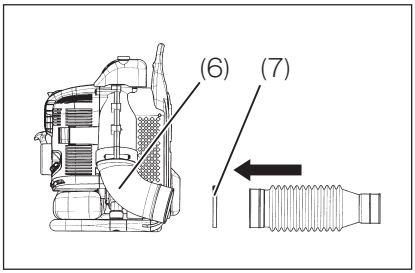
①蛇腹パイプ（1）と回転パイプ（3）をホースクランプφ 76（2）で固定してください。



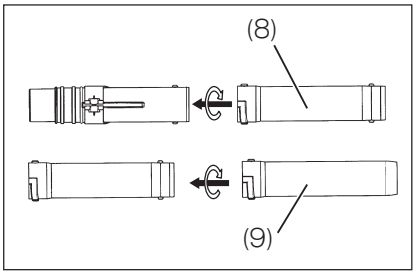
②コントロールハンドル（4）を回転パイプに挿入し、締付スクリュ（5）で固定してください。



③蛇腹パイプをホースクランプφ 100（7）で、本機部（6）に固定してください。

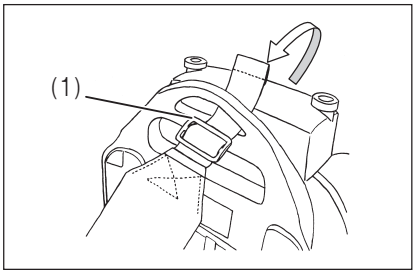


④回転パイプにブロワパイプ（8)、ブロワパイプにブロワノズル（9）を組み付けてください。

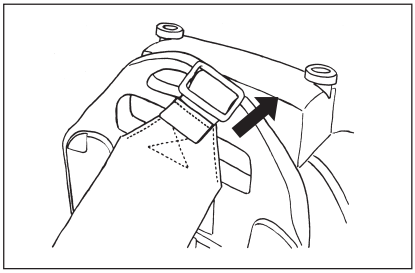


2. 背負いバンドの取り付け方

①背負いバンドの上端部を、折り返しのある方を上にして、ハンガーの下側から巻き付けた後、バンドのバックル（1）に通してください。

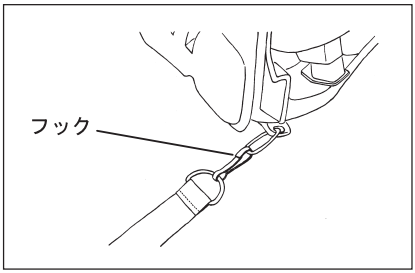


②バンドを取り付け後、バックルをハンガーに寄せてから強く引いてみて、外れない事を確かめてください。



③背負いバンドの下端部のフックをフレームのリングに掛けてください。

④バンドにねじれ等がないか確認してください。

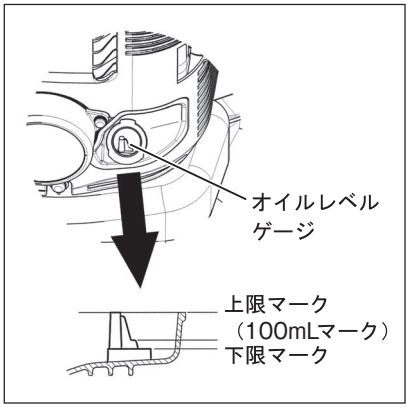


⚠注　意

●背負いバンド取り付け時は、折り返し部が外側になる様にしてください。折り返しを内側にして取り付けると、使用中にバンドが外れ、本機が脱落する恐れがあります。

運転を始める前に

1. エンジンオイルの点検・補給



①エンジンが冷えている状態で、以下の手順に従って行ってください。

- 点検：水平な場所に本機を置き、オイルキャップを外してください。オイルレベルゲージの上限・下限マークの範囲にオイルがあるか点検してください。オイルが 100mL マークに達していない場合は、新しいオイルを補給するようにしてください。
- 補給：水平な場所に本機を置き、オイルキャップをはずしてください。オイルレベルゲージの上限マークまで給油してください。

②参考として、オイルの補給時間は約 20 時間（燃料給油回数で約 10 ～ 15 回）です。

③オイルの汚れや変色が著しい場合はオイル交換してください。（交換時期、方法は 23 ページ参照）

《推奨オイル》…API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル（自動車用 4 ストロークエンジンオイル）

《オイル量》…0.22L（220mL）

注

- 本機を正立以外の姿勢で保管されていた場合、エンジン内にオイルが回り、補給の際にオイルの入れ過ぎとなります。
- オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

オイル給油時のポイント 1《オイルキャップについて》

- オイル給油口周りのゴミや汚れを拭き取ってからオイルキャップを外してください。
- 取り外したオイルキャップは、砂・ゴミ等が付着しない場所に置いてください。もしこれらが付着したまま組付けると、オイル潤滑不良やエンジン各所に摩耗を引き起こし、故障の原因となります。

オイル給油時のポイント 2《オイルをこぼしてしまったら》

- オイル汚れの原因となりますので、必ず拭き取ってから運転してください。

2. 燃料の給油

⚠警　告

●燃料の給油をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- 火気のない所で行ってください。またタバコを吸うなど、火気を近づけないでください。
- エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料の入っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
- 換気のよい所で行ってください。

●燃料の取り扱いには十分注意してください。

- 燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

本機並びに補給タンクの保管方法について

- 直射日光を避け、できるだけ涼しい所に保管してください。
- 自動車のトランクや車中に燃料を入れたまま放置しないでください。

《燃料について》
このエンジンは４ストロークエンジンです。自動車用ガソリン（レギュラーガソリン）を燃料としてください。

燃料のポイント

- ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。カーボン堆積が多くなったり、故障の原因となります。
- 古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

《給油について》
燃料の給油は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行うこと。

《給油方法》
燃料タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との圧力差を無くします。
燃料タンクキャップをはずし補給してください。このとき給油口いっぱいまで入れないでください。
補給後、燃料タンクキャップをしっかり締め付けてください。
燃料タンクキャップは消耗品です。点検して異常が認められたら交換してください。（交換目安：２～３年）

運　　転

1. 始動方法

⚠警　告

●燃料を給油した場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m 以上離れた所で始動させてください。
・ 引火、火災の原因になります。

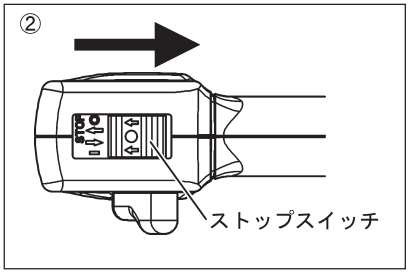
●エンジンの排ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。
・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

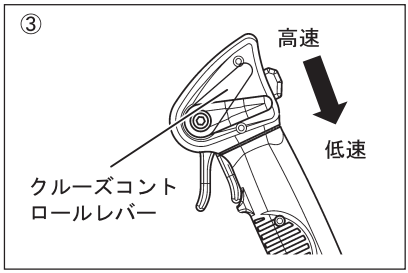
●始動後、音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、点検を行ってください。
・ そのまま使用しますと、事故の原因になります。

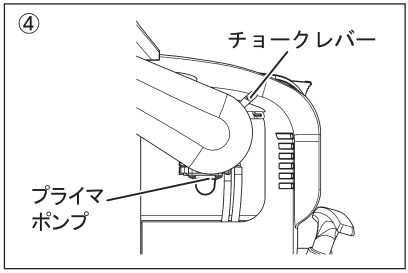
●ストップスイッチを“○”の位置にしたとき、エンジンが停止することを確認してください。

1）エンジンが冷えている場合、または燃料を給油した場合

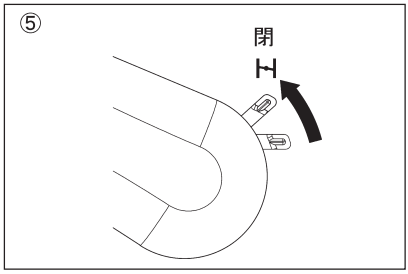
①本機を平坦な地面に置いてください。
②ストップスイッチを“｜”の位置にしてください。
③クルーズコントロールレバーが低速側になっていることを確認してください。
④燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押してください。
・ 7～10回程度で燃料がキャブレターにあがってきます。
・ 押しすぎても必要以上のガソリンは燃料タンクに戻りますので、問題ありません。

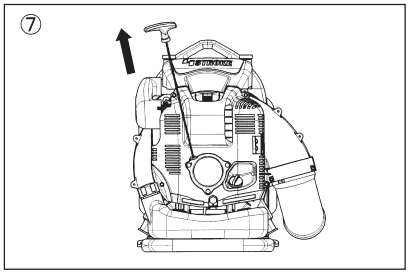


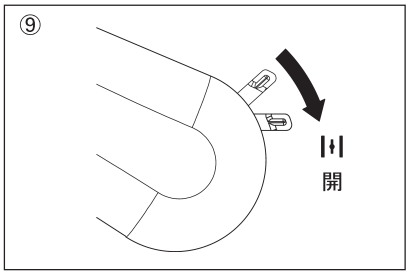




⑤エアクリーナ右側のチョークレバーを上げてチョークを閉じてください。
⑥本機が動かないように左手でエレメントカバーを押さえ、腰を十分に落とし、安定した姿勢をとってください。
⑦スタータハンドルに抵抗を感じるまでゆっくり引き出してください。そこからスタータハンドルをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。
・ ロープは一杯に引ききらないでください。
・ 引いたスタータハンドルは、その位置から手放さずに戻してください。
⑧エンジンが始動しましたら、チョークレバーを開けてください。
・ チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開き、必ず全開にしてください。
・ 寒い時またはエンジンが冷えている時は、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する場合があります。ご注意ください。
⑨２～３分間低速で暖機運転をしてください。
⑩エンジンの回転数が安定し、低速から高速回転にしたときに滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。







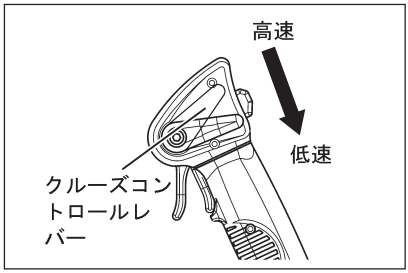
注

・ チョークレバーを「閉」の位置から更に上に上げると破損します。
・ 爆発音がしてエンジンが止った場合、または始動したがチョークレバーを操作する前に止った場合は、チョークレバーを「開」にもどし、再びスタータハンドルを数回引いて始動させてください。
・ チョークレバーを「閉」の位置にもどしたまま、スタータハンドルを繰り返し引続けると燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。
・ 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずしてスタータハンドルをすばやく数回引いて余分な燃料を出してください。またスパークプラグの電極部を乾かしてください。
・ スロットルレバーを低速にしても、スロットルバルブがアイドリング調整ネジに当たるまで戻らない場合は、コントロールケーブルの引っ掛かりを確認してください。

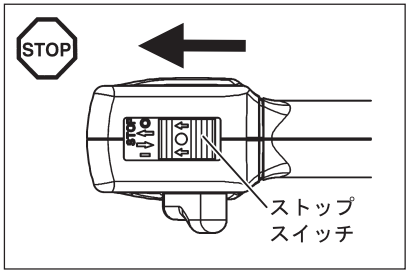
2）エンジンが暖まっている場合
①本機を平坦な地面に置いてください。
②プライマポンプを数回押してください。
③チョークレバーが開いていることを確認してください。
④本機が動かないように左手でエレメントカバーを押さえ、腰を十分に落とし、安定した姿勢をとってください。
⑤スタータハンドルに抵抗を感じるまでゆっくり引き出してください。そこからスタータハンドルをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。
⑥エンジンがかかりにくい時はスロットルを1/3程度開けて始動してください。

2. 停止方法

1）クルーズコントロールレバーが低速の場合
・ 引いたトリガレバーを離して、エンジンの回転を落としてからストップスイッチを“○”の位置にしてください。



2）クルーズコントロールレバーが低速以外の場合
・ クルーズコントロールレバーを低速にして、エンジンの回転を落としてからストップスイッチを“○”の位置にしてください。



アイドリングの調整

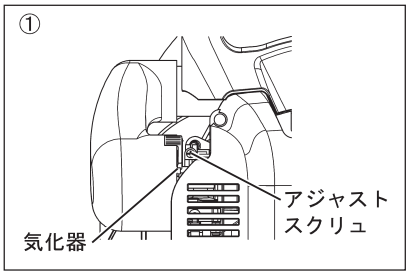
⚠注　意
●キャブレタは工場出荷時に調整済みです。アイドリング以外は調整しないでください。調整が必要になりましたら、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にご相談ください。

1. 低速（アイドリング）回転数の確認

①低速（アイドリング）回転数は2,800min^{-1}にセットします。

・調整が必要な時は、アジャストスクリュをプラス（+）ドライバーで回し、調整してください。

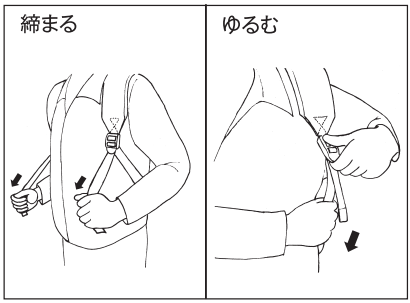
・アジャストスクリュを右に回すとエンジン回転が上がり、左に回すと下がります。



作業方法

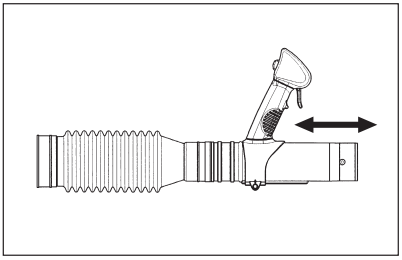
1. 背負いバンドの調整

・ 背負いバンドは、本機を背負った時に作業しやすい長さに調整してください。（調整方法：右図参照）



2. コントロールハンドルの調整

・ コントロールハンドルを回転パイプ上の作業しやすい位置に調整し、固定してください。

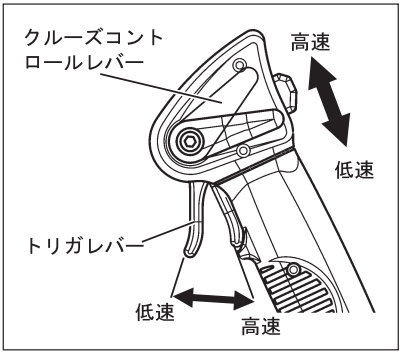


3. ブロワ作業

・ 風力は現場の状況に合わせてスロットルレバーで適切な強さに調整しながら作業してください。
  ・低速：乾いた落ち葉や芝生
  ・高速：砂利道や舗装されていない道路
・ クルーズコントロールレバーを使用することでトリガレバーを操作することなくエンジン回転数を一定に保つことができます。
  ・クルーズコントロールレバーを上げるとエンジン回転数が上がります。
  ・クルーズコントロールレバーを下げるとエンジン回転数が下がります。

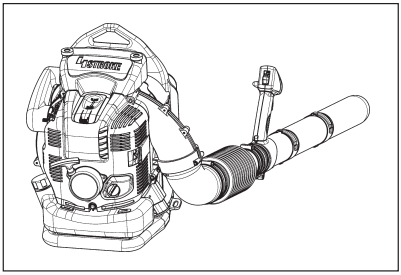
《クルーズコントロールレバー使用時のエンジン回転数の調整方法》

・ エンジン回転数を上げる場合
  ・トリガレバーを引く。この場合トリガレバーを放すと、元のエンジン回転数に戻ります。
  ・クルーズコントロールレバーを高速側に上げる。この場合、高くしたエンジン回転数で保持されます。
・ エンジン回転数を下げる場合
  ・クルーズコントロールレバーを低速側に下げる。



4. 運搬・保管時

・ 運搬、保管時は機械が正立状態になる様にしてください。（右図参照）



⚠注　意

●正立以外の姿勢で運搬、保管すると、白煙、エアクリーナのオイル汚れ、オイル垂れの原因になります。
●運搬時は必ずエンジンを停止してください。

点検と整備

⚠注　意

●点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、プラグキャップをはずしてください。
1. 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。

●点検整備後は必ずすべての部品を組み付けたことを確認してから運転を行ってください。

	項　　目	点検・整備内容	記載ページ
使用前	エンジン、ねじ、ナット	損傷と閉まり具合の目視検査 全体的な状態と安全度の確認	28
	エアクリーナ	清掃	26
	冷却風通路	清掃	29
	エンジンオイル	点検、補給	14
	燃料タンク	清掃、点検	28
	アイドリング回転数	点検、調整	20
給油後	トリガレバー	機能確認	—
	クルーズコントロールレバー	機能確認	17
	ストップスイッチ	機能確認	17
毎週	スパークプラグ	チェック、必要な場合は交換	27
50 時間毎	エンジンオイル	交換（初回交換は 20 時間運転後に行ってください）	24
3 ヶ月毎	燃料フィルタ	清掃、交換	28
	燃料タンク	清掃	28
200 時間毎	燃料パイプ	交換 ※ 1	—
	吸・排気弁の隙間	調整 ※ 1	
	エンジン	オーバーホール ※ 1	
	オイルチューブ	点検 ※ 1	
2 年間毎	燃料タンクキャップ	交換	16
休業休止時	燃料タンク	空にする	30
	キャブレタ	エンジンを運転し続け燃料を空にする	30

※ 1……200 時間点検事項はお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

1. エンジンオイルの交換

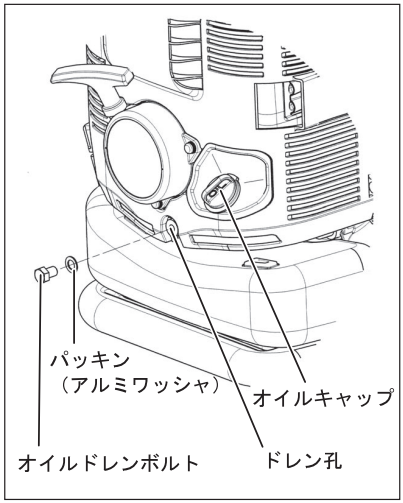
・ エンジンオイルが汚れていると、摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル量を守りましょう。

⚠注　意
●エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。また停止直後はオイルケース内にオイルが戻りきらないため、オイル入れ過ぎの原因になります。 ●オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

《交換時期》……初回 20 時間運転、その後 50 時間運転毎
《推奨オイル》…API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル（自動車用 4 ストロークエンジンオイル）

・ 交換に際しては、次の要領で行ってください。

①本機を平らな場所へ置いてください。
②廃油受け皿をドレン穴の下にあてがってください。（オイル量：220mL 以上入る受け皿を準備）
③オイルドレンボルトをゆるめて燃料タンク等にオイルが付かないように排出してください。



注
・ オイルドレンボルトはゴミがつかないような場所に置いてください。 ・ パッキン（アルミワッシャ）を紛失しないように注意してください。

④オイルキャップを外してください。（オイルキャップを外すとオイルが排出されやすくなります）

注
・ オイルキャップはゴミがつかないような場所に置いてください。

⑤排出されるオイル量が少なくなったら、本機をドレン側に傾けて、オイルを完全に排出してください。
⑥オイルを排出し終わったら、オイルドレンボルトを確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

注
・ パッキン（アルミワッシャ）の組み忘れに注意してください。

⑦オイルをオイル給油口から注入してください。オイルの注入方法はオイルの補充方法と同じです。（オイル規定量：約 220mL）（14 ページ参照）
⑧注入後、オイルキャップを確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エンジンオイル交換のポイント

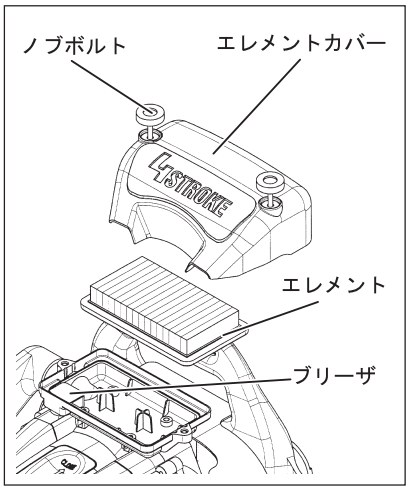
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は、法令で義務付けられています。法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。（6ヶ月に一回は新しいオイルと交換）

2. エアクリーナの清掃

⚠ 警告：火気厳禁

《清掃・点検時期》……毎日
（10時間運転毎）

①ノブボルトをゆるめてください。
②エレメントカバーを外してください。
③エレメントを取り外し、ハケ等でゴミを取り除いてください。
④エレメントの汚れが激しい時や、破損している場合は、新品のエレメントと交換してください。
⑤ブリーザ付近に付着したオイルをウエス等で拭き取ってください。
⑥エレメントをクリーナケースに取り付けてください。
⑦エレメントカバーを組み付け、ノブボルトを締め付けてください。



⚠注　意

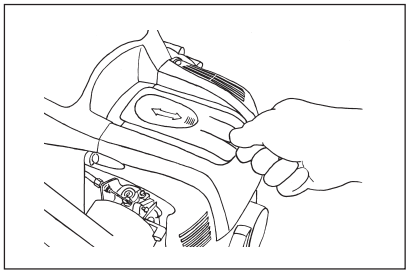
●作業環境によってエレメントに付着する塵挨が多い場合は、一日に数回掃除してください。
●エレメントはドライタイプです。水洗は絶対にしないでください。

3. スパークプラグの点検

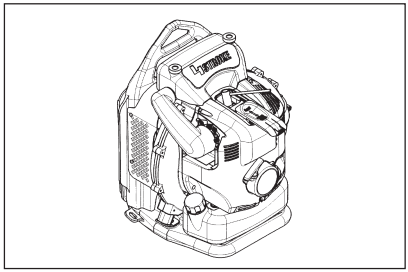
⚠注　意

●スパークプラグを取り外す時は、前もってスパークプラグとシリンダーヘッド部を掃除し、泥や砂などをシリンダー内に入れないようにしてください。
●スパークプラグを取り外す時は、必ずエンジンが冷えてから行なってください。シリンダーのネジ穴を傷めます。
●スパークプラグはネジ穴に正しく取り付けてください。斜めに取り付けるとシリンダーヘッドのネジ穴を傷めます。

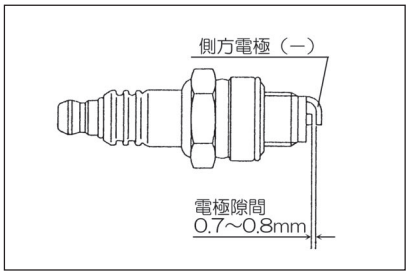
①プラグカバー開閉
開けるときは、右図のようにメインハンドルとプラグカバー突起部に指をかけ、突起部を押し上げ、“OPEN”方向へスライドさせます。
閉めるときは、“CLOSE”方向へプラグカバー突起部下の爪がエンジンカバーに乗り上げるまでスライドさせ、最後に突起部を押し込みます。



②スパークプラグの取りはずし
スパークプラグの取りはずしや取り付けには付属のボックスレンチを使ってください。

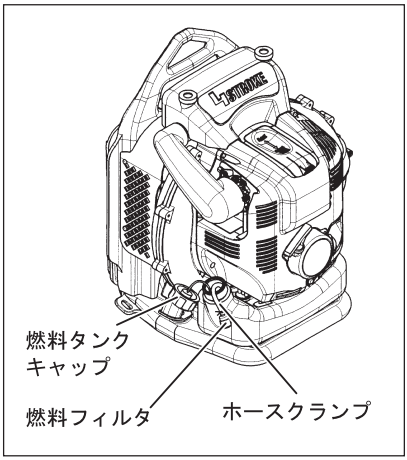


③スパークプラグの点検
スパークプラグの２電極間(右図参照)は、0.7 ~ 0.8mm です。この間隔が広すぎたり狭すぎたりする場合には、正しく調整します。
スパークプラグにカーボンが溜まっていたり、汚れている場合には完全に掃除するか交換します。



④スパークプラグの交換
交換に際して、NGK-CMR6A をご使用ください。

4. 燃料フィルタの清掃



・ 燃料フィルタが目詰まりすると始動困難になったり、エンジンの回転数が上がらない場合があります。
・ 燃料フィルタは次の要領で定期的にチェックしてください。

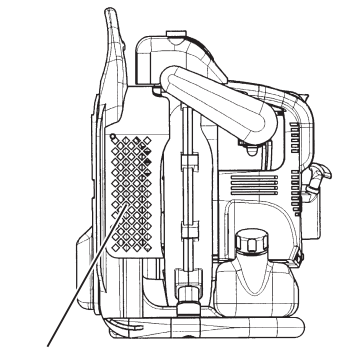
①燃料タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料タンクを空にしてください。この時、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。
②燃料フィルタを針金などを使い、給油口から引き出します。
③燃料フィルタの表面が汚れている場合はガソリンで汚れを落としてください。汚れたガソリンは各自治体指定の方法で処分してください。燃料フィルタの汚れが著しいときは交換してください。
④燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。交換についてはお買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

5. 各所ボルト、ナット、ビスの点検

・ ゆるんだボルト、ナット等は増し締めします。
・ 燃料やオイル漏れがないか点検します。
・ 破損部品は新品と交換し、安全を心がけてご使用ください。

6. 各部の清掃

- 本機はいつもきれいにするよう心がけてください。
- シリンダフィン等にゴミが詰ると、焼付き、火災の原因にもなりますので、十分注意してください。
- 作業中風量が落ちたと感じた時は、吸入ネットについたゴミを取り除いてください。
- ゴミを掃除しないで作業を続けると、エンジンの故障につながります。



⚠警　告
●吸入ネットを外したまま運転しないでください。使用前にネットが取付けてあること、破れていないことを確認してください。

格納方法

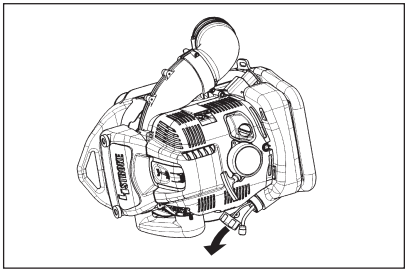
⚠警　告

●燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・ 停止直後では、やけどまたは引火、火災の原因になる恐れがあります。

⚠注　意

●長時間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタから燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。

・ 次の要領で燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。



①燃料タンクキャップをはずし、燃料を抜き、燃料タンクを空にしてください。この際、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。
②燃料フィルタを、針金等を使い給油口から引き出します。
③プライマポンプ内の燃料がなくなるまでプライマポンプを押し、燃料タンク内に出てきた燃料を抜いてください。
④燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。
⑤最後にエンジンが停止するまで運転させてください。
⑥スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしてください。
⑦スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてください。
⑧格納するときは、本機が正立になるようにして保管してください。
⑨抜き取った燃料は燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管してください。

故障かな？と思ったら

修理をお申し付けされる前に、まずご自身で点検を行い、その上でなお異常があるときは、取扱説明書の記載内容以外はむやみに分解しないでください。お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申しつけください。

不具合の状況	原　因（状態）	対　応
エンジンが始動しない	プライマポンプの操作忘れ	7 ～ 10 回押してください
	スタータロープの引き速度が遅い	勢いよく引き出してください
	燃料切れ	燃料を給油してください
	燃料フィルタの目詰まり	清掃してください
	燃料チユーブが折れている	折れ目を直してください
	燃料が古い	燃料が古くなると通常より始動が困難になります。新しい燃料と変えてください。 （約 1 ヵ月が目安です。）
	燃料の吸い込み過ぎ	スロットルレバーを中速から高速にし、スタータハンドルをエンジンが始動するまで引いて下さい。それでも始動しない時は、スパークプラグを外し、電極を乾燥させ、元通り組付けて、同様の始動操作を行ってください。
	プラグキャップが外れている	確実に取り付けてください
	スパークプラグの汚れ	清掃してください
	スパークプラグ電極の隙間の異常	隙間を調整してください
	スパークプラグのその他の異常	交換してください
	キャブレタの異常	点検整備をお申し付けください
	スターターロープが引けない	点検整備をお申し付けください
	駆動系の異常	点検整備をお申し付けください

不具合の状況	原　因（状態）	対　応
エンジンがすぐ止まる エンジンの回転が上がらない	暖機不足	暖機運転してください
	エンジンが暖まっているのにチョークレバーを“閉”にしている	“開”にしてください
	燃料フィルタの目詰まり	清掃してください
	エアクリーナの汚れ、目詰まり	清掃してください
	キャブレタの異常	点検整備をお申し付けください
	駆動系の異常	点検整備をお申し付けください
エンジンが止まらない ↓ エンジンをアイドリングにして、チョークレバーを“閉”にする	コネクタが外れている	確実に取り付けてください
	電気系の異常	点検整備をお申し付けください

暖機後の再始動でかからない時は…

上記、項目をチェックしても異常のない場合は、スロットルを 1/3 程度開けて始動してください。

メ　モ

882670-5
NNP

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711（代表）